

がん統計4指標の可視化による 都道府県がん対策類型化の試み

KUWAHARA Mai

桑原 舞

国立がん研究センター

優秀
ポスター賞

この度は優秀ポスター賞を頂戴し、選考委員の先生方ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

わが国のがん対策において、地域によらず質の高い医療を提供するためには、まず各自治体の実情を正確に把握することが不可欠です。そこで本研究では、全国がん登録データから標準化罹患比、標準化死亡比、純生存率比、早期発見割合比の4指標を算出し、性別・がん種(23部位)ごとに都道府県の特性を分析しました。その際、各指標が示す方向性の組み合わせに着目し、①総合的対策良好型、②総合的対策課題型、③高罹患・2次・3次予防良好型、④低罹患・2次・3次予防課題型の4つの類型で地域特性を整理しました。分析の結果、胃がんや肺がん等において、西日本は4指標が全国値より良好な方向である「総合的対策良好型」、北日本や中部地方の一部は全国値より不良な方向である「総合的対策課題型」という対照的な地域パターンが認められました。

この違いは、医療提供体制、生活習慣、がん部位特性などが複合的に影響している可能性があることが示唆されます。

学会当日の質疑応答では、研究者の先生方のみならず、多くの都道府県のがん対策担当者の方々からも質問をいただきました。地域の状況が視覚化されたことで「今後の施策の参考にしたい」との声を直接いただけたことは、現場のニーズを実感する大変意義深い経験となりました。今後は頂いた貴重なご意見を糧に、進展度別生存率を含めた層別解析等を行い、地域の実情に応じた総合的ながん対策の立案に資する研究へと発展させる所存です。

最後になりましたが、本研究を遂行できたのは、日々膨大なデータを正確に収集・管理されている全国のがん登録関係者の皆様の尽力と、共著者の先生方のご指導のおかげです。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

佐賀県における院内がん登録の 住民カバー率と施設間カバー率の 乖離に関する一考察

SASAKI Kazumi

佐々木 和美

佐賀大学医学部附属病院

優秀
ポスター賞

第32回日本がん登録協議会学術集会、およびその後の米子大会での受賞という栄誉を賜り、ご指導いただいた先生方や、支えてくださる皆様に深く感謝申し上げます。

本研究では、佐賀県におけるがん登録の網羅性を評価するため、全国がん登録罹患数に対する院内がん登録(HBCR)の捕捉割合を示す「住民カバー率」と、県内HBCR登録総数に占める主要4施設のシェアを示す「施設間カバー率」という二つの指標を用いて分析を行いました。

その結果、佐賀県の住民カバー率は2020年時点で66.1%(上皮内がん含む)であり、全国平均の77.1%を11ポイント下回る低水準でした。一方で、施設間カバー率をみると、年平均80.0%に達しており、県内HBCR登録総数の大部分が主要4施設に集約されていました。

部位別(浸潤がん)では、口腔・咽頭(捕捉率97.9%)、喉頭がん(92.9%)のように高度医療を要する疾患が主要4施設へ集約される「基幹施設集約型」の

側面がある一方、甲状腺がん(21.7%)などは、主要4施設以外の医療機関や専門クリニックに診療が分散し、データの「死角」が生じている「地域分散・連携型」の二面性が可視化されました。また、診断時住所別では、佐賀市(34.0%)への集中に対し、東部エリアの捕捉が低い地域差も顕著でした。

これらの結果を踏まえ、当院では整容面への配慮を目的の一つとした内視鏡下甲状腺手術を導入し、分散傾向にあった甲状腺がんに対しても高度な低侵襲手術を提供できる体制を整えています。こうした診療体制の充実を通じて、正確な診療データの把握と地域がん診療体制の最適化を目指しています。

「住民カバー率」と「施設間カバー率」の両面から地域がん診療体制を評価する枠組みは、佐賀県のみならず他地域のがん登録体制の評価にも応用可能であると考えられます。今後も登録データの質向上と活用促進を通じて、地域がん医療のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。